

キルギス商品 販路開拓へ

支援団体、京の商談会で協力呼び掛け

中央アジアの発展途上国キルギスで、農村の生活向上のために農産物の商品開発を支援している現地の団体が、新たな販路や協力事業者を探している。新型コロナウイルスの影響で、昨年の売り上げが約3割も減少したためだ。京都の市民団体が開いたオンライン商談会にも参加し、「厳選した原材料を使った高品質な製品で、キルギスファンになってほしい」と呼び掛けている。



キルギスの特産品を使った商品の販路拡大に向けて開かれたオンライン説明会(京都市下京区)



フェルトの小物入れを作るキルギスの農村の女性たち
(OVOP+1提供)

支援団体「OVOP+1」は、国際協力機構(JICA)の援助を受けて、2011年に設立。特産のはちみつやメリノウール、果物、塩などを使った約300種の商品を開発し、キルギス国内のほか、

コロナで売り上げ減 生活向上目指す

欧米や日本でも販売している。キルギス全域で3150戸の農家が収入を得ており、製造を担う女性の地位向上にも役立っているという。

しかし、昨年はコロナ禍の直撃を受け、2019年度には約5千万円あった売り上げが約3600万円まで減少。新たな販路や、高品質のメリノウールやドライフルーツなどの原材料を加工してくれる業者の開拓に迫られているという。

3月上旬には、途上国の支援活動を行うNPO法人「テラ・ルネッサンス」(京都市下京区)が主催するオンライン商談会に参加。京都市内の輸入雑貨やはちみつを販売する業者の関係者に、チーフアドバイザー原口朋久さん(54)が、現地から商品の説明や支援の現状を語った。

原口さんは「村の女性たちは、販路があればあるほどやりがいを持って働ける。少量からでも取引できるのでぜひ協力してほしい」と呼び掛けた。

商品はフェイスブック「ovop.kg」で見ることが出来る。問い合わせは「テラ・ルネッサンス」075(741)8786。

(藤松奈美)